

—創垂館の歴史—

創垂館は、明治21年に小牧山山頂西側の曲輪に、県の迎賓館として建設され、翌年、小牧山が徳川家の所有となった後は、徳川家主催の園遊会が開かれました。

昭和5年に小牧山が小牧町に寄贈された後は、利用されず荒廃も進み、戦後、町立小牧中学校の要望により現在地に移築され、中学校の作法室として利用されました。

昭和39年に市の青年活動の拠点として青年の家が創垂館西側に建設されると、その付属施設として利用されました。

その後、老朽化により平成24年度から利用停止となりましたが、後世に渡り創垂館の価値を伝え適切に保存するため、令和2年度から保存修理工事を実施し、約10年の時を超え、迎賓館としての当時の姿がよみがえりました。

—復原に至るまで—

今回の保存修理工事は、平成28年度に実施委託した「創垂館現況調査」に基づき、解体、調査及び考察を繰り返す文化財の復元的工事として進められました。その内容は解体工事によってその痕跡から明らかとなった事実を反映しつつ、屋根工事、左官工事には文化財修復経験のある職人を携わらせることでその伝統技法を使い、建設された当時の創垂館の姿をめざしたものです。

工事後は、保存するだけでなく、かつて多くの方に利用いただいたように、様々な活動に利活用していただける施設となるよう、台所など水回りは利便性を重視しました。

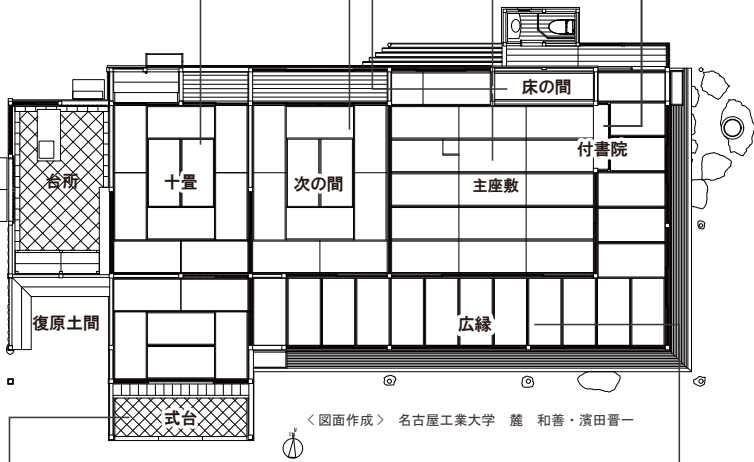
また、本工事は名古屋工業大学麓和善教授（現在名誉教授）、濱田晋一准教授に、調査から設計監理までをお願いし、約14ヶ月という長い期間をかけ、歴史的価値を高め後世に伝える保存修理工事を行うことができました。

十畳

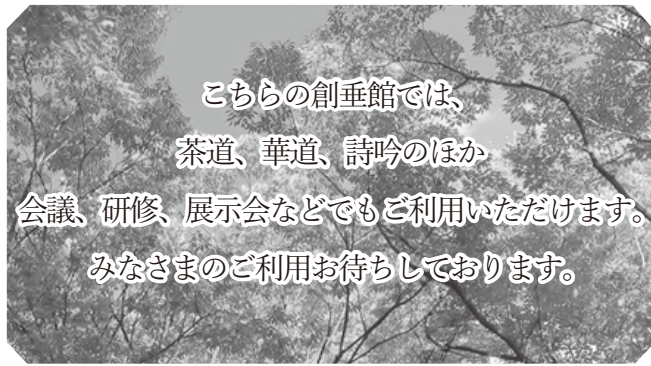
付書院

主座敷

正面間口2間の式台（玄関）があり、その奥には十畳・次の間・主座敷があり、主座敷には1間半の床の間、東側には付書院があります。



〈図面作成〉 名古屋工業大学 麓和善・濱田晋一



こちらの創垂館では、茶道、華道、詩吟のほか会議、研修、展示会などでもご利用いただけます。みなさまのご利用お待ちしております。



式台

広縁

広縁は今回の保存修理工事によって、建設当時と同様、畳敷きとして復原をしました。